



(左から) 砂浜に産み落とされたアカウミガメの卵▷産卵を終えて海に戻るアカウミガメ▷かごしま水族館で展示しているアカウミガメの赤ちゃん

## アカウミガメ

学名 *Caretta caretta*

|     |                                                                                                                                                                                                     |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生息地 | 世界の熱帯から温帯の海域に広く分布                                                                                                                                                                                   |
| 甲長  | 80～100センチ                                                                                                                                                                                           |
| 食べ物 | 貝類やエビ、カニなどの甲殻類、クラゲなど肉食傾向の強い雑食性                                                                                                                                                                      |
| 特徴  | 英名ではLoggerhead (大きな頭) と呼ばれるように、頭が大きくあごが発達している。この強いあごで硬い貝や甲殻類の殻をかみ砕く。前肢は平たくオール状で泳ぎに適しているが、陸や川にすむカメのように四肢や首を甲羅の中にひっこめることはできない。一生のほとんどを海で過ごし、産卵のときだけ砂浜に上陸する。国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストでは、絶滅危惧ⅠB類に指定されている。 |

## 太平洋で育ち日本で産卵

かごしま水族館の「ワクワクはつけんひろば」で人気を集めるのが、屋久島で昨年生まれた赤ちゃんウミガメです。日本はアカウミガメの北太平洋唯一の産卵地で、鹿児島で確認されます。磯海水浴場で、毎年のように上陸や産卵が確認されます。磯海水浴場で、毎年のように上陸や産卵が確認されます。

## おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

上陸した記録もあります。母ガメは、夜に砂浜に上陸し、穴を掘って卵を産みます。卵はピンポン玉そっくりで、1回に100個以上を産むこともあります。約2カ月でかえった子ガメは、数日から1週間ほどで砂の中から出てくると、「フレンジー」と呼ばれる特殊な

興奮期が約1日続きます。その間、敵の多い沿岸から沖合へと活発に泳ぎます。沖に出るとあまり動かず、海流に乗ってえさの豊富な米カリフォルニア沿岸やハワイ沖を目指します。

野生では性成熟(繁殖能力を持つ)までに、20～30年かかるといわれます。太平洋を横断しながら成長し、性成熟の手前、亜成体になると再び日本沿岸へ戻ってくるのが分かっています。

近年、砂浜が減ったり、漂着ごみ、人工の光の影響で上陸できなくなったりと、ウミガメは脅威にさらされています。子ガメの成長の長い旅に思いをはせ、何年先も鹿児島に産卵できる砂浜が残ってほしいと強く願います。

(展示課学習交流係・二階堂梨沙)